

# ラオス・ヴィエンチャン平野の村落における世帯の消費行動

## —2010 年悉皆調査報告—

池口 明子<sup>1</sup>・足達 慶尚<sup>2</sup>・サリカ・オンシー<sup>3</sup>

1 横浜国立大学

2 株式会社 三祐コンサルタンツ

3 ラオス国立大学

### I はじめに

筆者らは 2004 年からヴィエンチャン平野に位置するドンクワイ村を対象として村落調査をおこなっている。本調査では、コラート平原に特徴的な天水田を中心に、自然資源利用の形態を明らかにし、降水量変動や地域の地形といった自然環境、あるいは賃金労働といった労働形態との関係から資源利用の特徴や変化を理解することを主要な目的としてきた。すでに自然環境の特徴や自然資源利用の概要についてはいくつかの成果が報告された（野中編 2008 など）。前稿では、2010 年の悉皆調査の結果から、主に世帯人口と生計活動の特徴について報告した（池口ほか 2013）。しかし、世帯の生産活動は自然環境や就業機会のみならず、何を消費するかによっても左右される。天水田集落であるドンクワイ村でも、生産は単に主食である米の消費を満たすためではなく、新たな生活スタイルに伴う様々な消費を目的におこなわれ、変化していくことが予想される。そこで本報告は、2010 年悉皆調査の結果から、主に世帯の消費行動の概要について報告することを目的とする。

### II 調査方法

調査はラオ語で作成した調査票による訪問調査である。まず村の長老とともに、村落内の家屋をすべてリスト化し、地籍図をもとにした村落地図を作成した。この地図と調査票、および衛星写真に地名を載せた村落図をセットにして各世帯に持参した。調査メンバーは著者らのほか、ラオス国立大学地理学教室に所属する学生 13 名である。まず予備調査を 3 月 2 日から 2 日間おこない、全員で質問内容を再検討した。続いて 2010 年 3 月 4 日～3 月 9 日の 6 日間にわたって本調査をおこなった。

訪問した家屋は 285 世帯であったが、このうち 17 世帯が長期不在で調査不可能、あるいは他世帯との同居などにより独立世帯としてみなせないケースであった。その内訳は移住が 9 世帯、他世帯との同居が 4 世帯、死去・離婚などによる世帯の離散が 4 世帯である。したがって在住世帯数は 268 世帯であり、以下とくに断りがない限り、村落の全世帯数を 268 世帯として記述をすすめる。

なお、世帯人員の確認には多くの場合、各世帯に保持が義務付けられている家族台帳（ブン・サンマノークワ）を用いた。この台帳には各世帯人員の顔写真と氏名、生年月日が記載されている。ただし更新が頻繁ではないので、すべての人員について同居の有無、別居の場合には婚出かどうかを確認した。婚出ではなく就学・就労のための別居であれば同一の家計とみなして世帯構成員に含めた。

### Ⅲ 家計支出の構成

表1, 2は、家計支出の集計結果を年間支出、月間支出でそれぞれ示したものである。本調査では、各費目のうち食料・燃料・交通・嗜好品（酒、タバコ）などの最寄品については週あたりの支出を聞き取り、その他の費目については年間の支出を聞き取った。年間支出の算出では、週当たり支出データを年間に換算して用い、月間支出の算出では、年当たり支出データから、月平均額を算出した。嗜好品は支出の変動が大きく、年間支出に換算すると実態から離れて大きな額になるので月間支出集計のみに含めた。バイクやテレビなど複数年にわたって使用する耐久消費財支出はこれらの集計から除外した。

表1 費目別年間支出額

	全世帯計 (kip)	世帯平均 (kip)	%	日本円換算
食料	1,134,432,000	4,232,955	32.2	44,549
医療	443,803,000	1,655,981	12.6	17,428
燃料	355,810,000	1,363,257	10.4	14,347
教育	356,340,000	1,329,627	10.1	13,993
儀式(結婚, 葬式)	300,630,000	1,121,754	8.5	11,806
家屋増改築	193,410,000	721,679	5.5	7,595
衣服	168,788,000	629,806	4.8	6,628
ローン返済	162,490,000	608,577	4.6	6,405
交通	153,852,000	574,075	4.4	6,042
寄付	98,250,000	366,604	2.8	3,858
電気	93,584,000	349,194	2.7	3,675
税金	42,286,000	158,375	1.2	1,667
その他	11,859,000	46,324	0.4	488
合計	3,515,534,000	13,158,208	100.0	138,480

1円=95.019kip (2010年3月1日の為替レート)

嗜好品（酒類、タバコ、ビンロウジュなど）、耐久消費財の購入を除く

表2の月間支出の世帯平均をみると、最も多くを占めるのは食費である。前稿で示したように、ドンクワイイ村では全世帯の94.4%（253世帯）が農地を所有し、94.0%（252世帯）が水田を経営している。後述のように、米を購入に依存する世帯はわずかであり、主食を市場に依存する傾向は依然として小さい。おそらく食費の多くを占めるのは、肉と調味料だと考えられる。肉はサイタニー郡内の村やヴィエンチャンから行商が来ているほか、隣村のフアシエン村でも購入することができる。調味料は調理油、化学調味料、醤油、

表2 費目別月間支出額（嗜好品含む）

	全世帯計 (kip)	世帯平均 (kip)	%	日本円換算
食費	94,536,000	352,746	28.3	3,712
医療	36,983,583	137,998	11.1	1,452
教育	29,695,000	110,802	8.9	1,166
燃料	29,598,000	110,440	8.9	1,162
ビールなど酒類	27,448,000	102,418	8.2	1,078
儀式(結婚, 葬式)	25,052,500	93,479	7.5	984
家屋増改築	16,117,500	60,140	4.8	633
衣服	14,065,667	52,484	4.2	552
ローン返済	13,540,833	50,525	4.1	532
タバコとビンロウジュ	13,510,000	50,410	4.0	531
交通	12,719,000	47,459	3.8	499
寄付	8,187,500	30,550	2.5	322
電気	7,798,667	29,100	2.3	306
税金	3,523,833	13,149	1.1	138
その他	1,168,000	4,358	0.3	46
合計	333,944,083	1,246,060	100.0	13,114

1円=95.019kip (2010年3月1日の為替レート)

耐久消費財の購入を除く

砂糖などが村内の商店で販売されている。村での聞き取りによれば、調理油が一般に使われるようになったのは 1990 年代以降であり、それまでの主要な調理法は魚の場合、塩蔵・干魚のほか、生食・汁・茹でる・焼く・蒸すなどである（池口・野中 2008）。

月間支出で食費に次いで大きな割合を占めるのは医療費と教育費である。医療費には、薬局などで購入する薬代と通院・入院などによる病院での診察費が含まれる。2008 年 6 月から 2009 年 5 月の間に医療費支出があった世帯は 231 世帯（86.2%）であり、このうち薬の購入があった世帯は 226 世帯（全世帯の 84.3%）、病院での診察代支出があった世帯は 139 世帯（同 51.9%）、入院診療支出があった世帯は 48 世帯（同 17.9%）である。ドンクワイ村には医療サービス機関はなく、診察は主にヴィエンチャン市内の公立病院で受診するが、タイ国内の医療機関で受診するケースもある。教育サービスでは村に小学校（就学期間 5 年、6-10 歳）、隣村のファシエン村に中・高等学校（就学期間 6 年、11-16 歳）がある。教育費には、学費、文房具費のほか制服や靴などの通学用衣料費が含まれる。2008 年 6 月から 2009 年 5 月の間に教育費支出があった世帯は 199 世帯（74.3%）であり、このうち学費支出があった世帯は 192 世帯（全世帯の 71.6%）、文房具費支出があった世帯は 179 世帯（同 66.8%）、通学用衣料費支出があった世帯は 165 世帯（61.6%）であった。

月間支出にある燃料は、バイクやトラクターなどに使うガソリンと、調理用の灯油がある。前稿に示したように、村には木炭を製造販売する世帯が 36 世帯、薪を販売する世帯が 20 世帯あるほか、自給用にこれらを生産する世帯もある。世帯数は不明であるが、灯油を使って調理する世帯は観察の限りでは少数派である。ただし薪炭材の生産には多くの労働を必要とするため、十分な現金収入がある世帯では他世帯から薪炭あるいは灯油を購入する世帯は増えていると考えられる。

支出額 5 位には酒類が登場する。ドンクワイ村では酒を醸造・蒸留する世帯は少数で、村内の商店でラオカーオと呼ばれる蒸留酒か、ビールを購入する。筆者らが村に訪問を始めた 2004 年ごろには村内でビールを販売する商店は少なく、販売している量もわずかであった。2010 年では、村内の親族の集まりや祭礼では多くの場合、ビールがふるまわれている。おそらく、6 位に位置する結婚式や葬式などの儀式でも、酒や食事などのふるまいにかかる費用は増えていると思われる。

家屋の増改築は耐久消費財と同様に生活の富裕度を体験したり、他者に対して表現しうる消費行動と考えられる。その内容については耐久消費財の消費と合わせて後述する。

衣類に次いで金額が多い費目に借金返済がある。この支出がある世帯は 71 世帯（26.5%）であり、この集団で平均をとると 1 世帯当たり 190,716kip/月となる。このうち、親族から借りた世帯が 8 世帯（71 世帯中 11.3%）、その他の個人から借りた世帯が 20 世帯（同 28.2%）、村の女性グループから借りた世帯が 18 世帯（同 25.4%）、村の基金から借りた世帯が 8 世帯（同 11.3%）、銀行から借りた世帯が 11 世帯（同 15.5%）、融資元の回答がない世帯が 6 世帯（同 8.5%）であった。

そのほか、費目に上がっているものに、タバコやビンロウジュなどの嗜好品、交通、寄付、電気、税金がある。交通とは、主にヴィエンチャン市街地への行き来に使う乗合バス代であり、寄付とは主に寺への寄進である。

#### IV 主食の消費

ドンクワイ村の人々の主食は米である。従来の人びとの米の消費は、1 年間不足しないように工夫された天水田経営によって支えられてきた。では 2010 年調査時では村の米はどのようにまかなわれているのだろうか。まず消費実態からみてみよう。調査では世帯当たり 1 ムン（12kg）の消費日数のデータが得られた。ここから求められる 1 人 1 日当たり米の平均消費量は 0.5kg（標準偏差 0.24）、中央値 0.4kg、最小値 0.1kg、最大値 1.5kg であった。平均的な世帯を 1 つ取り上げると、夫（43 歳）・妻（38 歳）と 3 人の子ども（18 歳・16 歳・10 歳）からなる世帯 A では、1 日平均 2.4kg、1 年間に換算して 876kg の米を消費する。

表 3 は、2009 年の雨季作収穫の直前に、米を自給できていたかを尋ねた結果である。自給できていた世

帯は187世帯（69.8%）であり、残り約3割の世帯が外から入手していた。入手方法はほとんどの世帯が購入である（71世帯 84.5%）。購入・借入以外の方法では、親族からもらったり、子どもと共食したり、脱穀作業の労賃としてもらったりするケースがあったが、これらを合わせても10世帯（11.9%）にすぎない。自給できない期間があった81世帯について、その不足期間をみると、4ヶ月未満が42世帯（51.9%）を占め、自給への志向がうかがえる（表4）。一方、22世帯はほぼ周年購入などで米をまかなっており、その割合は全体の8.2%と少ないものの、非自給的な食料調達がなされていることがわかる。

次に主要な副業であり、調味料でもある魚醤「パデーック」、およびその他の保存食をみてみたい。自ら魚醤を作っている世帯は、247世帯（92.2%）にのぼる（表5）。この調査項目では、過不足を知ることはできなかったが、9割以上の世帯が魚醤を作る技術を持っており、魚醤は買うというよりも作るものという意識がなお強いことがうかがえる。また71世帯が販売もしており、現金収入源にもなっている。家屋の屋根や庭先などによくみられる干物は、魚が150世帯（56.0%）、カエルが95世帯（35.4%）で自家製を消費している。タケノコも頻繁に消費される食卓の定番である。125世帯（46.6%）がタケノコの水煮を、113世帯（42.2%）が発酵したタケノコを主に自家消費用に作っている。

表3 2009年雨季米収穫前における米の自給・非自給世帯と入手方法

	世帯数	% のべ世帯数	%
a. 自給世帯	187	69.8	
b. 非自給期間がある世帯	81	30.2	
計	268	100.0	
b. の入手方法			
購入		71	84.5
借入		3	3.6
c. その他		10	11.9
計		84	100.0
c. の内訳			
親からもらう	3		
夫の母からもらう	1		
姉からもらう	2		
弟からもらう	1		
子どもからもらう	1		
子どもと共食	1		
脱穀車で働いた代償	1		
計	10		

表4 2009年雨季米収穫前の米の不足期間

米の不足期間	世帯数	%
2ヶ月未満	25	30.9
2ヶ月以上4ヶ月未満	17	21.0
4ヶ月以上6ヶ月未満	6	7.4
6ヶ月以上8ヶ月未満	4	4.9
8ヶ月以上10ヶ月未満	7	8.6
10ヶ月以上	22	27.2
計	81	100.0

表5 保存食の自家製造

	魚 醤		魚 干 物		カエル干物		タケノコ水煮		発酵タケノコ	
	世帯数	%	世帯数	%	世帯数	%	世帯数	%	世帯数	%
自家製造あり	247	92.2	150	56.0	95	35.4	125	46.6	113	42.2
（うち販売）	(71)		(1)		(2)		(6)		(3)	
自家製造なし	21	7.8	118	44.0	173	64.6	143	53.4	155	57.8
合計	268	100.0	268	100.0	268	100.0	268	100.0	268	100.0

## V 物々交換

ドンクワイ村において、米や野菜を村外から調達する方法として従来重要な機能を担ってきたのは塩を交換財とした物々交換である。本調査では、現在も続く塩による物々交換、および市場グローバル化によって出現した新たな物々交換の実態が明らかになった（表6）。新たな物々交換とは、犬とモノ、主には寝具との交換である。95世帯（35.4%）が犬とモノの物々交換をおこなっており、これは伝統的な交換である塩とモノの物々交換をおこなった世帯（14世帯 5.2%）よりも多い。犬とモノの物々交換は、国境を越えてやってくるベトナム人仲買人が食用に犬を調達するための取引である。この物々交換がいつどこでどのように始まったものかは不明であるが、もともと犬を食べないラオの人々にとって、番犬であり愛玩動物である犬を現金化することには何らかの抵抗があるのだろう。交換される財が食料ではなく寝具であることも食用への抵抗を示しているのかもしれないが、今後さらなる調査が必要である。

前稿で示したように、塩を生産する世帯は43世帯（16.0%）あり、生産は村内を流れるマクヒョウ川近くの氾濫原で乾季におこなわれる。塩と米の交換は、塩1ムン（12kg）に対して1ムンの米のレートが一般的であるが、米が塩の半分であるケースが10ケース中3ケース、米が塩の1.4-2倍であるケースが10ケース中2ケースみられた（表7）。交換される米が精米されているかどうかの影響するのもかもしれないが、理由の詳細は不明である。交換は村内の親族が多いが、ヴィエンチャン市内のパクグム郡やハートサイフォン郡住民との交換もあり、塩を介した村間交流の範囲は広い。米以外にも、野菜や魚、衣類などとの交換例もあった（表8）。

表6 物々交換の実施世帯

	犬とモノ		塩とモノ	
		%		%
交換有	95	35.4	14	5.2
交換なし	173	64.6	254	94.8
全体	268	100.0	268	100.0

塩生産世帯は43世帯

表7 塩と米の交換レートと交換相手

塩(mun)	米(mun)	交換相手	村名、郡名
40	40	親戚	パクグム郡、ドンカルム村
20	20	親戚	ドンクワイ村
9	9	親戚	不明
5	2.5	友人	ドンクワイ村
4	4	親戚	不明
2	1	親戚	ドンクワイ村
2	1	親戚	ドンクワイ村
1	1	友人	ドンクワイ村
1	1.5	友人	ハートサイフォン郡、タ村
1	2	親戚	パクグム郡、マクヒョウ村

1mun=12kg

表8 塩と米以外のモノとの交換レートと交換相手

塩(mun)	交換物名	(mun)	交換相手	村名、郡名
2	魚		3 親戚	ドンクワイ村
2	食料品（ショウガ、魚、化学調味料）と衣類	不明	その他	ドンクワイ村
2	クズイモ、トマト		友人	パイロム村（サイタニー郡）
1	トマト		2 親戚	ドンクワイ村
1	サツマイモ、トマト、トウガラシ、カボチャ	不明	親戚	ハートサイフォン郡

1mun=12kg



## Ⅵ 家屋の増改築

食の心配がなくなり、医療や教育をほどほどに支えられるようになってもお、現金収入を求める動機には何があるのだろうか。以下では生活に必需ではない消費、すなわち顕示的な消費ともなりうる家屋の増改築と耐久消費財の消費をみてみたい。表9は、家屋の建築年別世帯数を示したものである。ここにもみるように、およそ半数の世帯の家屋が、2000年以降に建てられたものである。おそらく1980年以前に結婚して新居を構えた世帯の多くが、それ以降に新たに家建て直したものである。家屋の形態をみると、いわゆる伝統的な高床式の家屋は100世帯(37.3%)にみられるにとどまる(表10)。もともと高床であった家屋の1階を壁で囲んだ二階建ての家屋が101世帯(37.7%)、高床ではなく平屋を建築したものが66世帯(24.6%)にのぼる。窓ガラスはそれほど普及していないようで、ガラス付の家は13.4%(36世帯)である。屋根は多くの世帯でトタンを選択している(227世帯84.7%)。

図1は、家屋の建築年を横軸に、増改築年を縦軸にとって各世帯の増改築年をプロットしたものである。増改築が家屋の耐用年数に応じてなされるならば、正の相関を示して分布するはずであるが、建築年に関

表9 家屋の建築年別世帯数

建築年	世帯数	%
～1929	1	0.4
1930～1939	0	0.0
1940～1949	0	0.0
1950～1959	1	0.4
1960～1969	2	0.7
1970～1979	8	3.0
1980～1989	31	11.6
1990～1999	85	31.7
2000～2009	133	49.6
2010	7	2.6
計	268	100.0

表10 家屋形態と素材

家屋形態			窓			屋根の素材		
世帯数		%	世帯数		%	世帯数		%
高床	100	37.3	ガラス付	36	13.4	木または草	8	3.0
二階建て	101	37.7	ガラスなし	227	84.7	瓦	24	9.0
平屋建て	66	24.6	窓なし	5	1.9	トタン	227	84.7
その他	1	0.4				その他	9	3.4
計	268	100.0	計	268	100.0	計	268	100.0

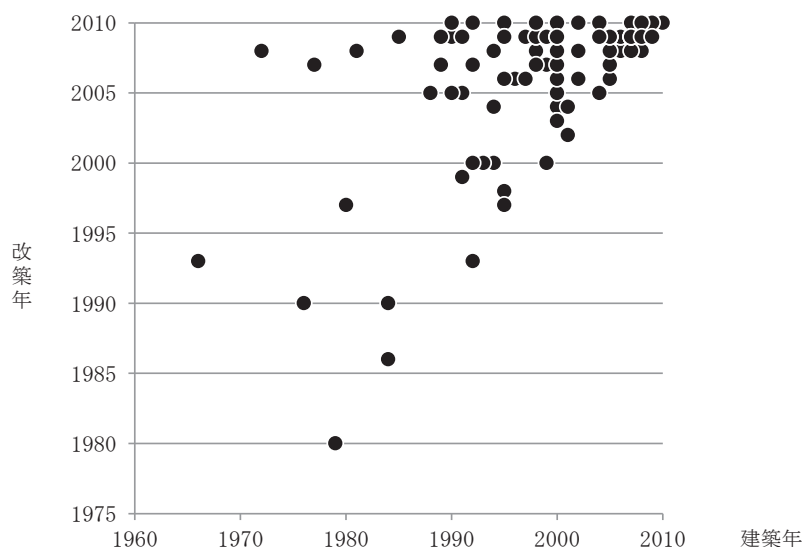


図1 家屋の建築年と改築年

表11 増改築の内容別世帯数

	のべ世帯数	全世帯に占める割合(%)
1階に壁を作った	48	17.9
壁・窓・屋根の修理	23	8.6
調理場・トイレなどの増築	22	8.2
取り壊して再築	9	3.4
家の高さを上げた	1	0.4

わらず、多くが2005年以降に増改築されている。これは、2000年代に入って賃金労働や土地の売買などによる現金収入機会が拡大したことと関係していると考えられる。その増改築の内容を表11に示す。主な内容は、1階に壁を作って二階建てにするもので、調査対象期間だけで、のべ48世帯が実施した。高床式家屋の1階部分は、従来ウシ・スイギュウをつないで堆肥を作ったり、機織りをしたり、世帯の内と外の人々が往来する自由な交流の場となってきた。こうした空間を壁で囲んで作られているのは多くの世帯で、テレビを囲む家族のプライベートな空間である。調理場やトイレなどの増築は多額の資金を必要とするものだが、22世帯が支出しており、これらの増改築には資金を借りて実施するケースもある。壁や屋根の修理、家の高さを上げるといった生活必需的な増改築はのべ件数のうち23.3%（23件）であり、ほかの多くの増改築は家屋のスタイルを見栄えよく、快適にするための消費であることがみてとれる。

## Ⅶ 耐久消費財と世帯の収入源

耐久消費財として、パソコン・自動車・ミシン・自転車・VCDプレーヤー・ラジオ・冷蔵庫・バイク・携帯電話・テレビ・扇風機の11品目を取り上げた（表12）。また、パソコンを除く10品目については、2005年に同村でおこなった悉皆調査結果と比較した。2010年調査では、最も普及率が高い品目は扇風機であり、9割以上の世帯が所有している。次いでテレビ、携帯電話があり、バイクは68.3%の世帯が所有している。冷蔵庫やラジオ、VCDプレーヤー、自転車も半数以上の世帯が所有している。自動車やパソコンを所有する世帯は少なく、それぞれ6世帯、2世帯にとどまる。2005年調査に比べて普及率上昇が最も著しい品目は携帯電話で、20.2%から81.0%に上昇した。次いでバイクが高く、18.7%から68.3%に増加した。自転車とミシンは、2005年に比べて普及率が下がった品目である。バイクが普及し、ヴィエンチャン市街地で衣服を購入することが一般的になった現在の状況を示しているといえる。

表12 耐久消費財所有世帯と普及率（2005年，2010年）

	2010年 (N=268)		2005年 (N=252)			
	所有世帯数	普及率(%)	所有世帯数	普及率(%)	平均購入価格(kip)	扇風機に対する価格比
パソコン	2	0.7	—	—	—	—
自動車	6	2.2	3	1.2	16,965,000	151.0
ミシン	10	3.7	11	4.4	484,636	4.3
自転車	149	55.6	162	64.3	326,867	2.9
VCDプレーヤー	156	58.2	117	46.4	568,031	5.1
ラジオ	164	61.2	88	34.9	251,726	2.2
冷蔵庫	167	62.3	77	30.6	1,271,405	11.3
バイク	183	68.3	47	18.7	4,667,791	41.5
携帯電話	217	81.0	51	20.2	770,131	6.9
テレビ	235	87.7	180	71.4	1,076,236	9.6
扇風機	250	93.3	207	82.1	112,378	1.0

表13 耐久消費財得点別階層と世帯の生業クラスター

耐久消費財得点	賃金労働	賃金労働・ウシ	ウシ・スイギュウ	米・野生資源	送金	商店	野生資源・薪炭	クラスター不明	計
20未満	11	8	8	4	2	1	1	4	39
20～40未満	8	5	8	7	11	2	0	4	45
40～60未満	8	2	3	2	5	0	0	4	24
60～80未満	33	6	17	25	18	2	7	6	114
80～100未満	8	1	4	9	6	2	9	1	40
100以上	0	0	1	2	0	1	1	1	6
計	68	22	41	49	42	8	18	20	268

クラスター不明世帯は、現金収入がない、または不明の世帯

耐久消費財の所有状況による世帯の分類方法として、インドの農村比較をおこなった荒木（2001, 2013）は、数量化Ⅲ類により抽出した第1軸のスコアを各世帯がもつ財の得点として用いて、世帯階層を分析している。この方法では、最も高価な財を持つ世帯数は最も少なく、最も安価な財を持つ世帯が最も多いことを前提としている。しかし、表12にみるように現在のドンクワイ村では金額にして2番目に高価なバイクの普及率が2番目に高く、この前提をみたしていない。そこで、最も安価な扇風機に対する価格比を財の得点として、各世帯がもつ耐久消費財得点を合計し、得点階級別にグループ化をおこなった。さらに、各グループに含まれる生業クラスター別の世帯数を示した（表13）。ここで、生業クラスターとは、現金収入源を次の6つに分けて、それぞれが占める割合をもとにクラスター分析をおこなった結果である（池口 印刷中）。①野生資源と薪炭②ウシ・スイギュウ③米・野菜④賃金労働⑤商業⑥送金。この結果、表に示す7つのクラスターに分けることができた。クラスター名は、複数の収入源のうち比較的多くを占める生業を示したものである。図2には、耐久消費財得点によってグループ化した階層ごとに、各生業クラスターに属する世帯が占める割合を示した。

これらの図表からは、耐久消費財を多く持つ、あるいは高価な耐久消費財をもつ世帯が、かならずしも近年増加する賃金労働世帯とは限らないことが読み取れる。賃金労働世帯のなかには、バイクを持たない階層に位置づけられる世帯もある。前稿に示したように、ドンクワイ村では土地の売買が活発化しており、生業というよりは、こうした不動産収入が生活スタイルに変化を与えているのかもしれない。この点の分析は今後の課題である。

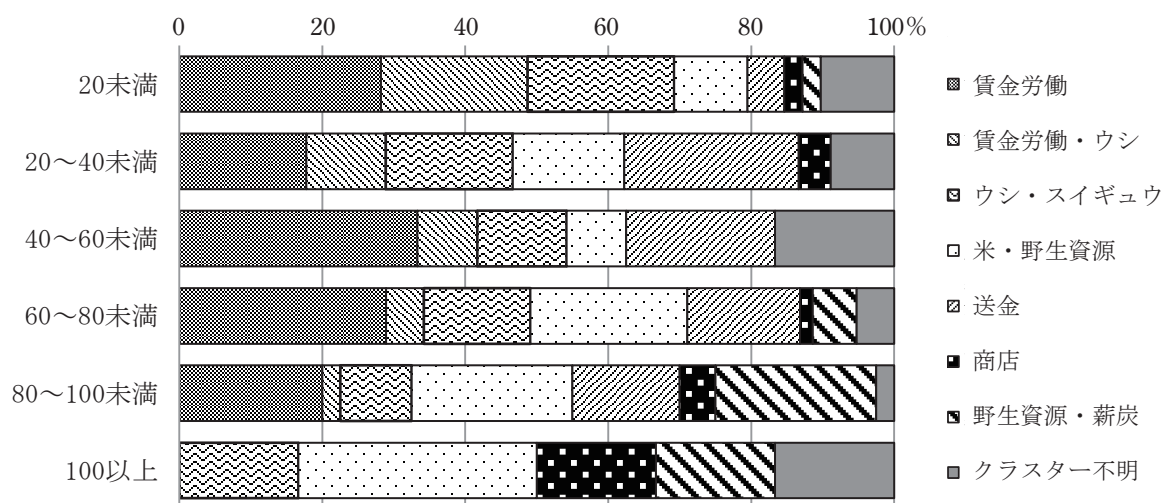


図2 耐久消費財得点階層別の世帯に占める生業クラスターの割合



## Ⅷ おわりに

本稿は、2010年におこなった悉皆調査をもとにして、主に世帯の消費行動を検討した。その結果、次のことがあきらかになった。1. 家計支出には医療や教育といった公的サービスが占める割合が大きい 2. 基本的な食である米と魚は依然として自給の傾向が強い 3. 2000年以降家屋の増改築、とくに1階部分を壁で囲う改築が増えている 4. 耐久消費財は特に携帯電話とバイクにおいて2005年から2010年の間に著しい普及率の上昇がみられる 5. 耐久消費財所有の大小には、現金収入源の種別の影響はみられない。今後の課題として、家計支出パターン抽出や世帯属性との関係、近年増えている土地の売買が消費行動に与える影響などの分析があげられる。

## 謝辞

本調査にあたって、ラオス国立大学地理学教室の学生諸氏、ドンクワイ村の人々に大変お世話になりました。また、龍谷大学の舟橋和夫氏と名古屋大学の岡本耕平氏には調査票作成にあたって助言をいただきました。以上の方々にお礼申し上げます。なお、本調査の一部は科研費（課題番号18251012, 20320127）の助成を受けた。

## 文献

- 荒木一視 2001 経済開発下インド2農村における耐久消費財の普及と村落社会の変貌。地理学評論 74 (6) : 325-348.
- 荒木一視 2013 耐久消費財所有の進展と農村の経済階層の変化－経済成長下のインドMP州1農村の10年－広島大学現代インド研究3 : 1-15.
- 池口明子 印刷中 世帯ライフサイクルと漁場利用－ラオス・メコン川流域の天水田集落を事例に－。池口明子・佐藤廉也編『身体と生存の文化生態』海青社.
- 池口明子・足達慶尚・サリカ, オンシー 2013. ラオス・ヴィエンチャン平野の村落における世帯と生計活動－2010年悉皆調査報告－ 横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅲ 15 : 1-17.
- 池口明子・野中健一 2008. 平野の暮らしと魚－ラオス・ヴィエンチャン平野の村から－。秋道智彌・黒倉寿編『人と魚の自然誌－母なるメコン河に生きる－』世界思想社.
- 野中健一編 2008. 『ヴィエンチャン平野の暮らし－天水田村の多様な環境利用』めこん.